



SDGsローカルハブ都市 特別賞

選考委員からのコメント



楠本 浩史氏

スポーツイベントなどでは食も大きな楽しみになっていますが、容器は衛生面も考慮し使い捨てのものが用いられることが多いことを踏まえ、さとうきびの廃棄物由来のバガスを原料として、またバガスは土壌へ帰るという一石三鳥の取組としている点を評価しました。今後は県内の他のチームとも連携し、静岡県内のスポーツイベントでの利用がより促進されることを期待します。



山本 由加氏

プラスチック代替としてのバガス容器利用、容器の土壌分解実験、その土壌を活用した子ども達への環境教育。一連の取組をエスパルスの高い知名度で押し上げ、地元企業が専門性で支える事業設計力の高さは、今後、SDGsが社会に実装されていく可能性を感じさせます。

SDGsインパクト



【ターゲット 12.5】
廃棄物の発生を再生利用等により大幅に減らす

バガスを飲食販売等で使用する容器に再利用することで、廃棄物を抑制し、エシカル消費を促す取組。プラスチック容器と対比して販売し、消費者は購入することで SDGs を学び、行動につなげることができる。



【ターゲット 14.1】
陸上活動からの汚染による、あらゆる海洋汚染を大幅に減らす

植物由来のバガス容器は使用後、土壌分解により土に還る。また、海にも優しい素材のため、生態系への悪影響を避けられる。イベント等での活用は、バガス利用の普及に効果的である。



【ターゲット 15.2】
あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進する

バガスは木材パルプに代用することができ、森林伐採量の削減にも効果的である。計画的な森林保護により、地球温暖化の抑制や、生物多様性の保全など、海にも陸にも優しい社会への寄与が期待できる。

SDGsローカルハブ都市特別賞のポイント

世界中で大量に生産されているサトウキビの副産物である「バガス」は、国内での利用にとどめるのではなく、海外都市においても取り入れやすい取組といえる。世界に向けて発信し、環境にやさしい社会の実現に向け、一丸となって取り組む必要がある。

SDGs環境教育プログラム「バガス容器が見出す無限の可能性」

(株) エスパルス × (株) 折兼 × 伊豆川飼料 (株) × (株) nanairo

1.取組概要

エスパルスは2007年より行政・企業・教育機関及び市民の皆様と「エスパルスエコチャレンジ」を継続的に実施しています。本取組みでは、世界70か国で年間12億トン栽培されるサトウキビの搾りかす「バガス(従来廃棄物として処理される)」を原料とした環境にやさしいバガス容器を利用し、飲食販売、販売を通じた小学生への環境教育、エシカル消費実証実験、実験による収益の一部を子ども食堂へ寄付、使用済みバガス容器を回収し土壌分解、分解した土を使用した野菜の栽培といった多様なプログラムを通じて幅広いフィールドでの環境教育活動を促進するとともに、バガス容器の無限の可能性を見出す唯一無二の企画です。

2.該当するSDGs目標



サトウキビの搾りかすとして輩出されるバガスは1年間に世界で約1億トン。廃棄物として処理されるバガスを容器の原料として再利用。また容器の原料となっている森林伐採量を減らすことに貢献、森林保護やCO₂削減にも寄与。また生分解性される素材で使用後にもメリット多数。

その他関連するSDGs目標



3.目標に対する達成状況、実績

- ・幅広い世代が来場する清水港フラワーフェスタにてバガス容器を用いた飲食の販売。
- ・エスパルスサッカースクール及びダンススクールに所属する小学生約40人が飲食販売と製造及びエシカル消費実証実験に携わる
- ・同じ商品(破壊されるマグロのネグトロ端材を用いたマグロメンチカツバーガー)をバガス容器600円、プラスチック容器500円で販売。かき氷含め結果バガス容器85食、プラスチック容器29食販売し差額の6,350円を市内の子どもの食堂に寄付。市場動向の傾向も把握。
- ・販売したバガス容器の中で当日回収した容器は土壌分解を実施し、バクテリアによって分解された土に還る。
- ・上記子どもたちにレクチャーしながらバガス容器が分解された土を用いて野菜を育て収穫予定。

5.取組が開始されたきっかけと展開

- ・2023年は三保の海岸で親子でビーチコーミングを実施。ビーチには陸から流れてきたゴミ、プラスチック由来のゴミが大半であることを参加者に実体験いただいた。その後バガス容器を用いてカレーを食べた後に、容器をコンポストに入れ土壌に自然分解される環境に優しいバガス容器の魅力をプラスチック容器と対比。
- ・2024年は市場でバガス容器を用いたエシカル消費実証実験を実施し一般消費者の動向を調査するとともに、当企画に小学生約40名が参加することでバガス容器の魅力を理解するとともに商品の販売やバガス容器の回収を実体験する幅広い環境教育活動に発展。
- ・エシカル消費実証実験で得た収益の一部を子ども食堂に寄付することで新たなフィールドにおいても環境に配慮した商品の活用をPRすることが可能となり、子ども食堂への寄付という地域貢献活動にも寄与することができた。
- ・一連の流れを地元の新聞に掲載いただき直接企画に携わっていない皆様へも広く周知することに発展。

6.応募した取組の今後の計画・展開

- ・6月に回収したバガス容器は8月～9月には土壌分解される予定。伊豆川飼料で使用しているツナ加工時に排出される非可食部分により製造されたマグロ由来の有機肥料をバガス容器が分解された土に混ぜ、その土を用いて野菜の栽培を試みて資源が循環される流れを子どもたちが体験できる企画を計画。
- ・収穫した野菜はエスパルス関連施設等で企画の趣旨を提示しながら地域に配付、食材として子ども食堂に寄付、調理・加工して各種イベントにて販売するなど資源循環のサイクルを一巡させる。
- ・環境に優しいバガス容器の選択をきっかけに、各自が世の中に存在する様々な商品や選択の中からSDGsに寄与する行動を率先して選択するきっかけとなることを幅広い分野で啓蒙推進。

4.取組イメージ



7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

- 1.サトウキビの生産国は世界70か国以上、年間約12億トン生産される世界第7位の農作物です。そのうち1年間に排出されるバガスの量は、世界中で約1億トンにものぼります。廃棄されているバガスを容器の原料として使用するバガス容器の普及は世界規模で大きなインパクトを出すことができる可能性があります。
- 2.人間の生活圏で排出されたゴミが海に流れる可能性は高くその7割はプラスチック由来です。自然分解には400年以上の時間を要するとされていますが、バガス容器は生分解性される素材であり海洋プラスチック問題にも大きく貢献できる可能性があります。
- 3.プロスポーツクラブの告知力、バガス容器を取り扱う折兼、土壌分解等について専門的知見のある伊豆川飼料、破壊されるマグロのネグトロ端材を用いたマグロメンチカツバーガーを販売する就労継続支援B型事業所nanairoがそれぞれの強みを生かしパートナーシップにより新たな価値を創出。他の分野・テーマにおいてもSDGs目標達成を目指すためには、こういったパートナーシップの拡大は不可欠と思慮します。

